



Friday Night Science 令和7年度

大学生のための自然史講座

博物館における自然史研究

—日本列島を中心として—

国立科学博物館における研究の成果に加え、近年の生物多様性研究の知見を交えながら日本列島の自然、自然史について様々な角度から体系的に理解できる講座です。



前回受講者の声（一部抜粋）

学んだことのない分野だったので、質疑応答の視点も丁寧な答えも新鮮で、講師の方々の研究対象への熱を感じる講義が多く面白かったです。

状況を選ばずに参加でき、移動時間がなく自宅から落ち着いて受講できた。

改めて、国立科学博物館や自然教育園にもっと足を運んでみたいと思いました。

講義後の質問がしやすく、自分の資料で調べたりしながら視聴できたことで、あまり知らない分野について知識を得られて良かったです。

島国である日本の生物多様性と環境変化による生物への影響に興味がありました。

様々な自然の状況や、直面する問題、博物館における研究の意義について学ぶことができました。

自然史全般についての総合的な講義で、過去から現在が繋がっていることがよく分かり、現在が未来につながることを切実に感じることができました。

対 象：主に大学生・大学院生・専門学校生（一般の方も受講いただけます）

実施方法：オンライン（ライブ型）講義（Zoomを使用予定）
及び 後日 オンデマンド配信（質疑応答は行えません）
配信期間：各講義 1ヶ月程度（予定）
※国立科学博物館に来館して行う集合型講義ではありません。

開講期間：令和7年8月29日 金曜日（第1回）
以降12月まで第1・3金曜日 18：00～19：30 全9回

募集人数：100名程度

受講料：18,900円*大学パートナーシップ入会校の学生は9,500円
※この講座は9回の連続講座です。1回単位での受講はできません。

★「大学パートナーシップって何？」

「私の大学はパートナーシップに入っているのかわからない」

そんなときは、こちらで一覧をご確認ください。

下記の国立科学博物館ウェブページからもご確認いただけます。
<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/>
※入会校は、随時更新されます。



受講までの流れ

① お申込み

国立科学博物館 大学パートナーシップ「大学生のための自然史講座」のウェブページからお申込み下さい。（WEB受付）

https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/natural_history/

※頂いた個人情報は、本講座に付随する目的のみに使用いたします。

申込締切：令和7年8月4日（月）12時

② 受講者決定

受講申込者には、8月8日（金）までに、受講の可否をメールでお知らせします。

応募者多数の場合には、大学パートナーシップ入会校の学生を優先させていただきます。あらかじめご了承ください。

③ 受講料のお支払い

受講料のお支払いなど詳細は、受講決定通知とともにご案内いたします。



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

National Museum of Nature and Science Friday Night Science

大学生のための自然史講座
博物館における自然史研究
—日本列島を中心として—

Curriculum カリキュラム



第1回 8月29日(金)

標本資料センター コレクションディレクター 細矢 剛

【自然史とは何か？】

標本から自然を知る～菌類研究者の視点から～

博物館は自然史研究の拠点として標本・資料を集めています。自然史は、自然現象を記載・記録し、自然科学の基盤をつくります。標本は記載した事実を証明する物的証拠なのです。標本の再検討や、集積された標本データの解析によって新しい事実が分かります。本講義では、菌類研究者としての経験をもとに、標本と博物館が自然史に果たす役割を考えます。

第3回 9月19日(金)

生命史研究部長 甲能 直樹

【日本列島の生き立ちⅠ】

脊椎動物進化の5億年史

私達哺乳類の究極の祖先である脊椎動物は、古生代カンブリア紀前期(約5億年前)に誕生し、中生代白亜紀前期(約1億千万年前)になって真の哺乳類が現れます。本講義では、まだ日本列島が誕生していない中生代の「日本」にもこうした脊椎動物が多数生息していたことを、日本列島の構造発達史と環境変動史に照らしながら紹介します。

第5回 10月17日(金)

植物研究部 多様性解析・保全グループ 研究主幹 奥山 雄大

【日本の植物の多様性Ⅰ】

つながりが育む生物多様性

陸上生態系の顕著な多様性は、陸上植物をめぐる4つの共生系によって支えられています。4つの共生系とは、送粉共生系、種子散布共生系、防衛共生系、そして菌根共生系です。本講義では、これらの4つの共生系の具体例と特性を、特にその中心となる植物の側から概観し、これらがどのように陸上の生物多様性を生み、また支えているかを紹介します。

第7回 11月21日(金)

理学研究部 理化学グループ グループ長 室谷 智子

【日本周辺の自然現象】

日本で自然災害と向き合う

日本列島は地震・火山噴火・津波・台風・豪雨など、多くの自然現象による災害に見舞われる災害列島です。一方で、私達は地震や火山、豪雨からの恩恵も受けています。本講義では、なぜ日本周辺では地震・火山・津波が多いのか、これまで日本がどのような災害を経験してきたのかに加え、様々な自然現象の観測やそこから分かることについて紹介します。

第9回 12月19日(金)

植物研究部 陸上植物研究グループ 研究主幹 海老原 淳

【日本の植物の多様性Ⅱ / まとめ】

もっと活かそう自然史コレクション！

現生生物の標本は、形態的特徴を保存することを主目的としてかつては作製されていましたが、現在ではそれ以外にも新たな活用価値が多く見出されています。それに伴って、専門の研究者だけが利用する資料から、万人に対して開かれたコレクションに変化しつつあります。本講義では、特に植物を例に、コレクションと社会のつながりを考えます。

第2回 9月5日(金)

理学研究部 地学研究グループ 研究主幹 堤 之恭

【日本列島の生き立ちⅠ】

日本列島はどのようにしてできたのか？

日本列島の骨組はプレートの沈み込みにより大陸縁に形成された「付加体」でできており、日本海ができたことで大陸から引き離されて「列島」となりました。その過程についてはこれまで様々な説が提案されてきました。本講義では付加体の話を中心に、日本列島がどのようにして形成されてきたのかを、新知見を交えて解説します。

第4回 10月3日(金)

動物研究部 脊椎動物研究グループ グループ長 篠原 現人

【日本の動物の多様性Ⅰ】

日本列島の魚類の素顔

国立科学博物館には国内最大の魚類標本コレクションがあります。本講義では、その大部分を占める魚類液浸標本とは何か、なぜ継続的に魚類を採集するのか、どう研究に役立てるのかななどの基本から、当館の魚類標本コレクションの特徴を説明します。また、日本列島に生息する個性豊かな魚類の形態や生態を紹介します。

第6回 11月7日(金)

生命史研究部 人類史研究グループ 研究主幹 神澤 秀明

【日本人の形成】

日本列島にやってきた人々

私達が住む日本列島には、いつ、どこから、どのようにして人々がきたのでしょうか。また、どのような変化を経て、現代の日本人になったのでしょうか。本講義では、遺跡から出土する人骨の形態や考古遺物の証拠に加え、近年盛んに行われているDNA研究から復元される、日本人の起源と成立について概説します。

第8回 12月5日(金)

動物研究部 陸生無脊椎動物研究グループ 研究主幹 井手 竜也

【日本の動物の多様性Ⅱ】

昆虫の多様性と人とのかわり

昆虫は地球上で最も多くの種が知られる生物であり、あらゆる環境に進出し、その環境ごとに様々な特徴をもった種が暮らしています。人にとって最も身近な野生動物のひとつでもあり、その多様性は良くも悪くも人の暮らしと繋がっています。本講義では、日本で見られる昆虫の多様性と人とのかわりについて紹介します。

お問い合わせ先

国立科学博物館 学習支援部学習課

「国立科学博物館 大学パートナーシップ」担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL : 03-5814-9187 E-mail : upartner@kahaku.go.jp